布野中学校区探究活動モデル

令和５年２月３日(金)現在

Ver.4

課題の提示・
課題の発見

phase①　現実の文脈に沿った課題と出会う。

教師は地域についての情報を提示して児童・生徒に興味をもたせる。児童・生徒はその情報について詳しく調べる中で，地域に根ざした探究課題を見出す。

phase②　成果の発表について事前に詳しく示される。

成果(成果物)の発表方法を決める。これは仮の発表方法であり，必要性や児童・生徒の想いによって修正しても構わない。

確認すべき内容

・いつ発表するのか。(日時)　　・誰に発表するのか。(相手)
・どこで発表するのか。(場所)　　・どうやって発表するのか。(方法)
・発表当日までにどれだけの時間が用意されているのか。(準備に使える授業時間)

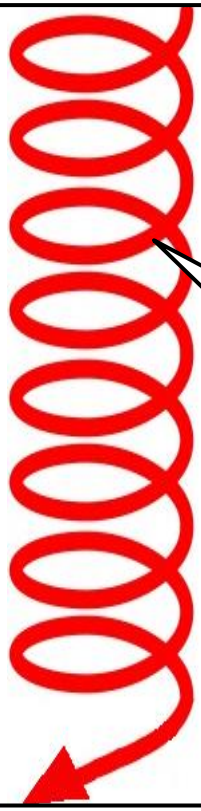
phase③ 成果の発表に向けて，自分たちで学習を調整しながら粘り強く取り組んでいく。

示された授業時数をやりくりしつつ，成果の発表日に向けて，学習を調整しながら粘り強く探究していく。教師は，ファシリテーターとなる。

教師の役割

・活動が行き詰まり，児童・生徒だけで進めそうにないと判断できるとき，視点の焦点化につながる声掛けをしたり，これまで集めた情報を確認するように促したり，考える上で役立つヒントを提示したりする。
・児童・生徒が行っている活動が，探究として小さくまとまりそうになっているとき，探究メンバーの一人という立場からスケールの大きな提案や活動を発展させる提案をする。
・児童・生徒が行っている活動の方向が探究の目的からずれているときに，探究しているそもそもの目的を再確認するように促す。
※児童・生徒が行っている活動が，教師が当初想定していた流れとずれてきたとき，その活動が資質・能力の育成に有効と判断できる内容ならば，その活動を継続させる。

探究の過程を何度も繰り返す



成果の発表

phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う。

これまでの成果を発表する。児童・生徒は，発表後に探究活動全体を俯瞰して自分の資質･能力の高まりを確認したり，次の探究に向けた新たな問いを発見したりする。